

GHSと私たちの関わり

現在、私たちの生活は様々な化学品により支えられています。化学品は、私たちの生活を快適・便利にするものですが、その反面、正しく取り扱わなければ、私たちの健康や環境に悪い影響を及ぼす場合があります。

化学品の中で、私たちの生活に身近なものとしては、洗剤や各種クリーナー、殺虫剤、塗料などがあげられます。そして、これらのパッケージなどには、取り扱い上の注意や応急処置などが書かれているものがたくさんあります。

しかし、現状では、各国の化学品の危険有害性に関する分類表示制度が統一されておらず、その危険有害性がわかりにくい場合があります。



そこで、GHSが定められました。GHSは、世界的に統一された分類・表示により化学品の危険有害性を分かりやすくすることを目的とした仕組みであり、この導入により、化学品による事故などを減らすことが期待されます。また、化学品を購入する時に、人の健康や環境に配慮した製品を選択することが出来るようになります。

GHSは、以下の4点を期待される効果として挙げられました。

- (a)危険有害性の情報伝達に関して国際的に理解されやすい仕組みの導入によって、人の健康と環境の保護が強化される。
- (b)既存のシステムを持たない国々に対し国際的に承認された枠組みを提供する。
- (c)化学品の試験および評価の必要性が減少する。
- (d)危険有害性が国際的に適正に評価・確認された化学品の国際取引が促進される。

出典: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (GHS), ST/SG/AC.10/30, United Nations, New York and Geneva, 2003

具体的には、化学品の製造業者や輸入業者などが、GHSで決められた基準に従って化学品を分類し、表示を行っていくこととなります。

販売業者や消費者などは、この分類表示により、身の回りにある化学品の危険有害性をより正しく知ることができるようになります。

また、それらの表示に従って化学品を正しく取り扱うことで、誤った取り扱いによって引き起こされる事故などを防ぎ、人の健康および環境の保護がより進むことが期待されます。

『化学品 = 危険!危ない!』と思われる方がいるかも知れませんが、**正しい方法で取り扱えば、事故などを防ぎ、リスクを最小限におさえることができるのです。**

『リスク』とは…

『リスク』とは私たちの健康または環境に対して好ましくない影響を及ぼす可能性のことです。例えば、私たちの生活の中には、自然災害によるリスクや病気によるリスク、化学品によるリスクなど様々な『リスク』が存在しています。例えば、化学品によるリスクとは、化学品を通して私たちの健康や自然環境に悪い影響を及ぼす可能性のことであり、化学品の危険有害性とその化学品にどれだけ接したか（暴露量）によって決まります。

そのため、危険有害性が低くても暴露量が多い場合には、悪影響を及ぼす可能性は高くなります。逆に、危険有害性が高くてもごく微量の暴露であれば、悪影響を及ぼす可能性は低くなります。



GHSは今後、各国で導入されていく予定であり、国際的には、2002年に開催されたヨハネスブルグサミットにおいて、2008年までの実施が目標とされています。また、日本をはじめアジア太平洋経済協力(APEC)に属している国々では、2006年までの実施が目標とされています。

環境省では関係省庁と協力し、GHSの速やかな導入に向けて積極的に取り組んでいきます。

問い合わせ先

環境省 総合環境政策局環境保健部 環境安全課 (GHS担当)

〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2

Tel.03-3581-3351

Fax.03-3580-3596

E-mail:ehs@env.go.jp

関連情報源

国連GHS本文のサイト

<http://www.unece.org/trans/danger/publi/ghs/officialtext.html>

国連のGHS小委員会のサイト

<http://www.unece.org/trans/main/dgdb/dgsubc4/c4age.html>

OECDのGHSに関するサイト

<http://www.oecd.org/EN/home/0,,EN-home-521-14-no-no-no-no,00.html>